

1 島内でのリハビリテーションの実施（新たに取り組むもの）

① モデル事業参加の意向調査

- 各町村宛て、モデル事業への参加の意向を調査したところ2町村から回答あり。

1 新島村（新島村国民健康保険本村診療所）

【事前に作成いただいた、モデル事業実施調査表】

○ 島内でのリハビリテーションの実施（新たに取り組むもの）

1 現在行っているリハビリテーション（あれば）

- 新島内では健康センターに在籍する理学療法士1名による通所リハビリ（一部、訪問リハビリ）と本土の事業所に在籍する理学療法士1名による主に介護給付による訪問リハビリを行っている。
- 健康センターに在籍する理学療法士が部分的に作業療法も担ってくださっている。通所リハビリでは整形外科疾患（変形性膝関節症など）が主で、訪問リハビリは廃用症候群、脳梗塞後遺症のリハビリが主となっている。

2 モデル事業で取り組みたいリハビリテーション

- 理学療法に関しては、通所、訪問ともに人員が不足している状況。定期的な理学療法士の派遣のニーズはあると考えます。
- 課題としまして、作業療法士、言語聴覚士の不在があり、それぞれが定期的な派遣やオンラインでのリハビリが可能であれば取り組みたい。
- 特に摂食嚥下機能の評価、高次脳機能障害の評価、自動車運転のシュミレーションなどが喫緊の課題と思います。

3 2の取組に必要な設備、人材など（遠隔による評価、指導、相談等を含む。）。

- VE（嚥下内視鏡検査）実施にあたり、内視鏡はすでにあるため、リアルタイムで画像を評価頂くための端末（診療所用のIPADがあるためそれを利用したテレビ電話で代用可能かもしれません）と嚥下リハビリテーションの計画を一緒に考えてくださる言語聴覚士
- 自動車運転の適性の評価につきましては、高次脳機能評価、ドライブシミュレータ評価、自動車教習所の実車の評価などを含むため、ドライブシミュレータだけの評価を持って運転可とは言えませんが、導入する場合は百万円前後かかると思われます（<https://www.takei-si.co.jp/products/1597/>）。将来、VRドライブシミュレータが主流になるかもしれません。

2 八丈町（町立八丈病院）

【事前に作成いただいた、モデル事業実施調査表】

○ 島内でのリハビリテーションの実施（新たに取り組むもの）

1 現在行っているリハビリテーション（あれば）

- ・ 理学療法を中心とした入院・外来での個別療法および物理療法
- ・ 急性期・維持期等の介入時期の制限は設けず、必要患者には全て対応している。
- ・ 家屋調査等の退院支援
- ・ 整形外科疾患については、回復期病棟とほぼ同等の対応ができます。
- ・ 高齢者への転倒予防教室、特区别支援学級での動作指導

2 モデル事業で取り組みたいリハビリテーション

- ・ 当院への転院前の病院との情報交換（当院へは患者の入院状況、当院からは退院後の患者の生活情報）
- ・ 定期的または不定期的なS Tによるリハビリテーション

3 2の取組に必要な設備、人材など（遠隔による評価、指導、相談等を含む。）。

- ・ 情報共有に関する5 G環境を利用したデバイス（デジタルネイサージ用ディスプレイなど）
- ・ 必要に応じたS Tの派遣

② 実施機関の選定に当たって

【実施機関の選定】

- ・ 島の規模により医療提供体制が大きく異なるため、大規模離島、中小規模離島、それぞれでモデル事業を実施

➔ 応募のあった2町村をモデル事業実施機関として選定

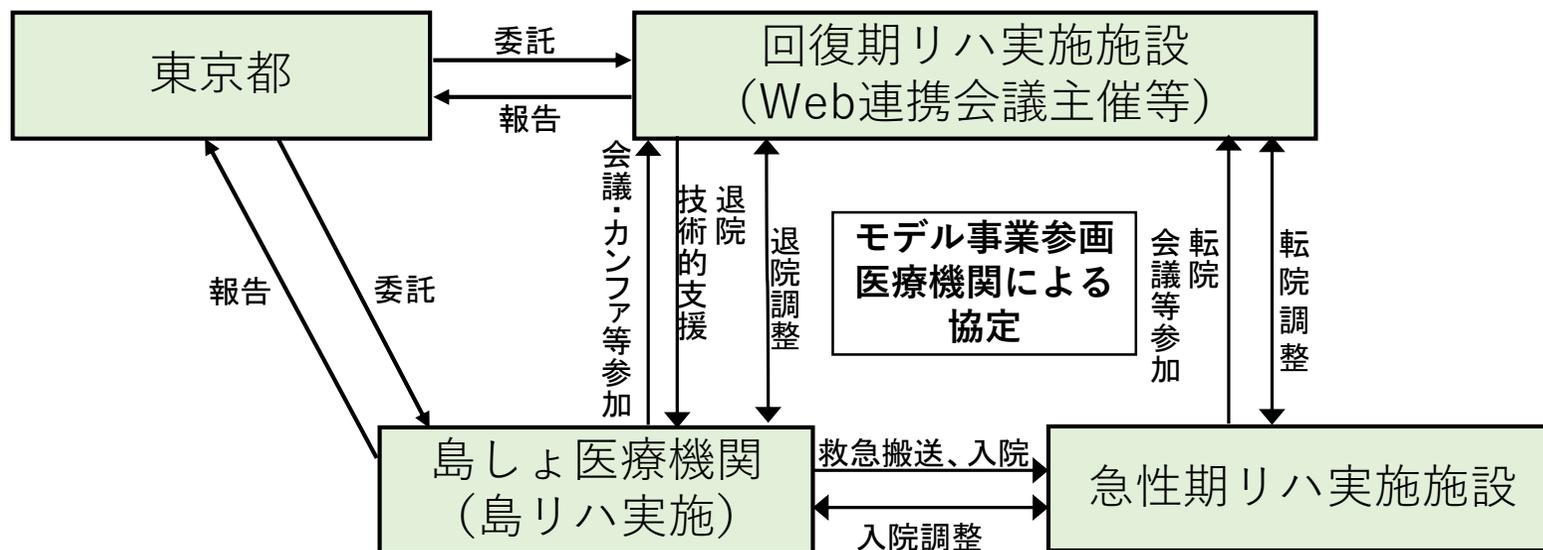
【実施期間】

- ・ モデル事業としては、安全優先で実施すべきであり、ADLや家族の状況等を考慮した上で対象患者を慎重に選定する必要がある。
- ・ 人口規模が小さいため、症例数を確保し検証するためには、一定の期間が必要である。

➔ 3年間の実施（定期的に評価・検証、3年目に最終的なとりまとめ）

2 関係機関による切れ目のない連携体制の構築

実施体制（例）



【Web連携会議の構築】

急性期医療機関での治療後、早期から帰島を目指した連携体制の強化

- ・ 定例会議（多職種参加、島しょ医療体制共有、症例検討等）
- ・ リハビリに関する研修
- ・ 退院に向けたカンファレンス（本人・家族参加、帰島後の生活環境も含めた調整）